

5 段ボール箱についての困った!

Q15 箱の底が弱くなってきたり、箱の底から水滴が落ちる場合はどうしたらよいですか?

A 生ごみの投入を一旦やめて、風通しのよいところで乾燥させましょう。

- 基材の水分が多すぎると箱がもろくなります。
- 水分の多い生ごみを入れ過ぎないようにしましょう。
- 底面の通気をよくしましょう。(かご、園芸ポット入れ、猫除けマットなどの上に乗せる)
- 基材に水分を投入する際は、少しずつなじませながら投入しましょう。
- 補強のために、箱の外側下部をガムテープでひと巻きする方法もあります。
- 箱の強度が戻らない場合は、底が抜ける前に新しい箱に交換しましょう。



Q16 箱を傷つけずに基材をかき混ぜる方法がありますか?

A 厚手のゴム手袋をしてかき混ぜるのがおすすめです。

- 混ぜる際は、卵の殻や骨などのとがったもので手を傷めないよう注意してください。
- スコップは箱を傷つけやすいため、おすすめしません。



Q17 剥がれた段ボールが基材に混ざっても問題ありませんか?

A 問題ありません。● 箱の強度が低下している場合は、テープで補強するなどしましょう。

6 その他

Q18 寒い時期でも分解が進む方法がありますか?

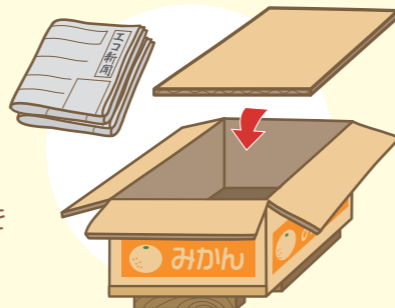
A 周囲の温度が15℃以上となる場所に置きましょう。

- 段ボール箱を二重にする、使わなくなったバスタオルで覆うなどでも、保温効果があります。

Q19 家にある段ボールもコンポストに使えますか?

A 厚手の段ボールであれば、使えます。

- みかん箱のような二重構造の段ボール箱が丈夫でおすすめです。
- 薄い段ボール箱の場合は、箱の底に補強用の段ボールや新聞紙を複数枚敷いたり、同じサイズの箱を二つ重ねることで使用することができます。



ダンボールコンポストを

楽しく続けるための

Q&A

ダンボールコンポストを始めてからぶつかるトラブルや疑問を解決するQ&A集です

金沢市



困ったときの参考にしてください

1 スタート時の困った!

Q1 コンポスト内の温度が上がらないけれど、分解しているのでしょうか?

A 温度が上がってなくても、分解は進んでいます。

- スタート時は生ごみを少なめに投入し、分解の具合を確認しながら徐々に増やしていきましょう。
- 1日に入れることのできる生ごみの量は、野菜くずの場合で最大300gぐらいです。(外気の温度が15℃以下の場合、最大150gぐらい)
- 分解を早めたいときは、市販の腐葉土や微生物を元気にする「えさ」を投入しましょう。

微生物が元気になるえさの例
(油分や糖分を多く含むもの)

- 天かす
- 炒め油や揚げ油の残り
- 牛脂(スーパーで無料でもらえるものがあります)
- 食べきれなかった飴やお菓子
- 炒った米ぬか

Q2 うまく分解している状態とは、どんな様子でしょうか?

A 生ごみが黒ずんで小さくなり、徐々になくなっている状態です。

- 分解のしやすさは、生ごみによって違います。例えば、

- ① りんごやブドウの皮
→ 1週間程度で分解され、周りの基材と区別できなくなります。
- ② りんごのヘタ、ブドウの茎
→ 固い繊維質のものは分解されにくく残ります。
そのまま堆肥として使用できますが、気になる場合は取り除いてください。



お問い合わせ先

金沢市環境局ごみ減量推進課

TEL 076 (220) 2302 FAX 076 (260) 7193

E-mail gomigen@city.kanazawa.lg.jp

Q3 基材が乾かないように、水を足してもよいでしょうか?

A 加える水分が多すぎると、虫や異臭の発生、箱の破損につながります。

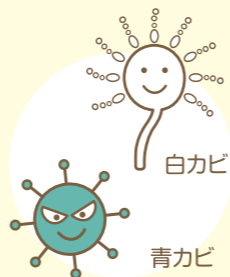
- 野菜くずからも水分が出るため、基材を手で握ると固まり、すぐ崩れる程度の水分を目安に水を足しましょう。
- 水分が多くなりすぎたときは、野菜くずの投入をしばらくやめたり、予備の乾燥基材を投入するなどして、水分量を調節しましょう。
- 基材がカラカラに乾燥すると微生物は活動しなくなります。夏場は日当たりのいい場所は乾燥しやすいので、涼しいところへ移動させましょう。



Q4 カビが生えたが、このまま続けても大丈夫でしょうか?

A 白カビは大丈夫ですが、青カビや黒カビには注意しましょう。

- 白カビは、分解が順調なときに発生するカビです。
- 青カビや黒カビは、有害なカビ毒を発生させたり、アレルギーの原因となることがあります。拭き取ってもまた発生する場合は、新しいダンボールコンポストに替えることをおすすめします。



Q5 コバエの発生を防ぎたいのですが

A 発生の原因は「外部からの侵入」です。次のことに注意しましょう。

- 生ごみや水の入れ過ぎで、腐敗させないようにする。(においで寄ってくる)
- 入れた生ごみは基材で覆うようにする。(においで寄ってくる)
- 目の細かい防虫ネットや洗濯ネット、ストッキングなどでダンボールコンポストを覆う。
- 三角コーナーの生ごみや米ぬかなど、虫が卵を産み付ける可能性のあるものを投入しない。

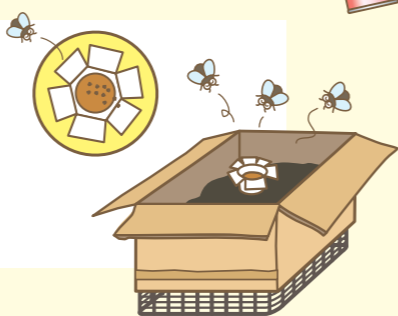
Q6 完成後に堆肥として使いたいが、殺虫剤を使用しても問題ないでしょうか?

A 一時的であれば、使用しても問題ありません。

- 市販の殺虫剤は、一定期間で分解されるため、堆肥の成分に影響を及ぼしません。
- 殺虫剤の他に、トラップ(わな)を仕掛けることで、コバエを駆除することができます。

コバエトラップの仕掛け方

- 底の浅い容器を準備する。(紙コップの上部をカットしたもの、プリン容器など)
- その中に、市販の「めんつゆ」を適量入れ、水で3~5倍程度に薄め台所用洗剤を数滴加える。
- 容器ごとコンポスト内の基材の上に置く。



Q7 においを抑える方法はありますか?

A 魚類をなるべく入れないようにしましょう。

- にんにくやたまねぎ、ニラもにおいが出やすいです。
- おいが気になる場合は、残しておいた乾燥基材を足してよくかき混ぜてください。



Q8 旅行などでしばらく不在にする場合はどうしたらよいですか?

A 不在にする1週間前から生ごみや水の投入をやめ、かき混ぜるだけにします。

- 水分を投入せず、乾燥状態とすることで、微生物が休眠状態になります。
- 再開時は、少し水分を足してから、これまでどおりご利用ください。



3 投入するものについて困った!

Q9 玉ねぎの皮やとうもろこしの芯、骨付き肉の骨、貝殻、卵の殻などはほとんど分解しないのですが、投入しても大丈夫ですか?

A 大丈夫です。堆肥として使用する際に、気になる場合は取り除いてください。

- 卵の殻は、かき混ぜる際に手をケガする場合がありますので、細かく砕いてから入れましょう。



Q10 ドッグフードを入れても問題ないですか?

A 基本的に問題ありませんが、糞や唾液がついたものは避けましょう。

- 動物特有の雑菌が混入しないように注意しましょう。



Q11 天ぷら油の廃油は毎日入れても大丈夫ですか?

A 液状の油を頻繁に投入することは避けましょう。

- 大量の油は、基材の通気性を悪くし、微生物の活動を妨げます。
- 市販の廃油凝固剤でゼリー状にした油を、毎日少しずつ入れる方法がおすすめです。



Q12 米ぬかを入れる場合はどのくらいが適量ですか?

A 分解が進まない場合に、ひとつかみ投入してください。

- コナダニの発生につながるため、入れ過ぎに注意してください。
- 必ずから炒りした米ぬかを使用してください。(虫が棲みついていることがあるため)

4 終わるタイミングがわからず困った!

Q13 生ごみはどれだけの期間入れ続けることができますか?

A 3ヶ月程度が目安です。

- 箱が壊れず、分解しているうちは入れ続けることができます。

完成



Q14 分解が進まなくなった場合はどうしたらよいでしょうか?

A 新しい基材を足すか、新しいダンボールコンポストを使用しましょう。

- 使用を終了したダンボールコンポストは、熟成させて堆肥として家庭菜園などで利用するか、そのまま金沢市のベジタくる〜ん堆肥回収店舗へ持ち込みましょう。